

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101870		
法人名	医療法人社団協栄会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護「しゃらく」		
所在地	水戸市中丸町604-1		
自己評価作成日	平成23年8月19日	評価結果市町村受理日	平成23年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ibaraki-kouhou.as.wakwak.ne.jp/kouhouv/informationPublic.do?JCD=0870101870&amp;SCD=320">http://ibaraki-kouhou.as.wakwak.ne.jp/kouhouv/informationPublic.do?JCD=0870101870&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成23年10月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を大切に考えている。その甲斐あってか、夏祭りのイベントでは「楽しみにしてる」などの声を聞く事が出来たり、来場者も増えてきていたりいる。また、震災時には心配して水を分けてくれる方もいれば、容器などを貸してくれる方もいた。近くで遊んでいる子供とも顔なじみになり、地域の一員としての立ち位置が出来てきているのではないかと感じている。フロアの方では、入居生活の長い方も多く、重度化してきているが、個人の生活ペースを大切に考えながら、ケアに取り組めるよう心掛けしており、「ここが自分の家だ」と思ってくれている入居者の方もいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着に関する理念を今年度追加し、また各フロアごとに理念を掲げ、地域密着型サービス提供者としてのサービス提供ができるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りのイベントでは近隣へ挨拶に回ったり、協力してもらったりと交流を持っている。また、敬老会や市民運動会などにも参加している。近所の子供たちが敷地内の空き地でよく遊んでおり、その子供たちを誘って焼きイモをした事もある。また、花壇コンクールにも出品し、地域参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は地域窓口センターの依頼で、認知症を理解してもらう為の講習の講師に参加している。また、民生員を通じて、地域の方で認知症でお困りの方の相談にのれる様なネットワークを作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、管理者が定期的で開催しており、フロアリーダーは同席をする機会を持つ事があった。会議で話し合った内容や貴重なアドバイスがあった時には管理者から職員へ報告されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員が市町村へ出向いて取り組みを話す事はないが、認定調査員が来訪された際、実施していることやホームの様子を伝える事はある。また、夏祭りでは市の担当者を招待し、取り組みを知って頂ける機会を持っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行ないながら、拘束をしないという意識を持っている。家族から車椅子のベルトの着用などの要望があった時も、本人を拘束しない為にどういったケアができるか話し合い、家族に理解を求めながら工夫を持っており、今まで拘束はした事はない。		

茨城県 グループホームしゃらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアに高齢者虐待に関するファイルを置いており、いつでも見直す事ができる様になっている。また、「管理者通信」といった書類が配信され、その中で虐待に対する危険性などを考える機会を管理者は作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行っている。今年も水戸総合福祉専門学校の教師の方に講師を依頼し、勉強会を行なった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。入居にあたり、必要な情報や家族・利用者の要望などは、直接職員が聞き取り、情報としてまとめ全体を通して共通理解できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者の様子を報告しながら、家族の意見や要望を聞き出せる様に努めている。また、利用者の変化に応じて家族面談の機会を持ち、家族の意向を確認している。家族会を開催し、家族の方だけで意見を交わせる場を持っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、職員会議を行ない意見交換の場として活用している。また、管理者は毎日、フロアへ顔を出しながら、職員とコミュニケーションを積極的にとっており、相談しやすい関係を作ってくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、年2回の賞与があり、その都度管理者が各職員と個人面談を行ない、評価の内容を伝えると共に、各職員の仕事に対する考えや意見を聞き出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内が回覧で回ってきて、興味のある研修は自由に参加する事ができる。また、個々のレベルに合わせ、管理者から指名で参加する事もある。研修で学んだ内容は伝達講習として、全体へ伝える機会を持つようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はケアマネージャーの会合などに参加し同業者と交流を持ちながらネットワークを作っている。また、フロアリーダーや相談員などは管理者を通じてそういった場に参加し交流を持つ事がある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報を元に、職員はどのような関わりが必要か話し合い、本人との関係構築に努めている。実際に関わって気付いた事や本人の思いなどは記録に残し、本人の思いに答える事ができるように話し合いを持って関わる際に工夫を持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって、職員が直接、家族の要望などを伺い、情報としてまとめ職員全体が共有できるようにしている。入居後しばらくの間は家族へ状況をまめに電話報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人にとって何が最優先として必要なことが管理者及び職員で話し合い対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の状態に合わせてながら、家事参加をしてもらえよう関わり、一緒に行いながら関係構築に努めると共に、一方的な提供になってしまわない様注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告を必ず行い、家族が今本人はどのような状況にあるのか受け止められるよう努めている。また、利用者の状況に応じて、電話で声を聞かせてもらったり、面会に来れないか相談したりと協力をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居の段階で馴染みの場所や店は何うようにしており、出来る限り馴染みの関係が続けていけるようにしている。今、馴染みの美容室に通っている方もいれば、友人が遊びに来る方などもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や個性、相性を理解し、ご利用者が関わりやすいよう職員は間に入って会話の橋渡しをしている。必要に応じて利用者同士が円滑に関わりをもてる様に話し合いを持つ事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も病院や施設に入っている方に会いに行ったり、しゃらくの行事のお知らせをし、参加して頂いたりして交流を持っている。また、入居されていた方の新盆の際には、必ずお線香をあげに行く様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の想いなどを読み取りながら、その想いに応えられるようフロアミーティングなどを通して話し合いを持ち、実現していけるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、これまでの生い立ちや生活環境を聞きアナムネを作成しながら活用している。また、入居後も家族や知人、本人から得られた情報はアナムネへ継ぎ足している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤時に必ず申し送りノート・生活記録を読み状況の把握に努めている。また、1日のサブリーダーを決め、申し送りを行ない日中・夜間通して情報が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りで情報を共有し、ミーティング等を通して今の状況に対する必要なケア等を話し合いながら、介護計画に移行している。その都度、家族からも意見を伺い、介護計画に反映していける様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に関わる中で気づいた事は生活記録へ記入している。また、必要に応じて書類を作成したり、データを取り観察をしたりしながら、介護計画の見直しに活用している。		

茨城県 グループホームしゃらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の要望を読み取りながら、一時帰宅や外泊が行えるよう、必要に応じて送迎をしたり、時には同行したりしながら、家族との関わりを大切にしている。外泊の際には、家族が困っている事はないか夜に電話を入れ、不安を抱かないような配慮をするよう気をつけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅への逆デイが定期的に行えるよう家族と関わりを持っている。また、近所の美容室では、車椅子のままカットが出来る様協力してもらったり、本人に合ったカラー剤を相談したりしている。利用者の希望に沿って近くの飲食店に出前をお願いする事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけの病院を確認し、引き続き受診していけるよう家族と相談を持つ様にしている。また、同法人の病院に固執せず、必要と感じれば、様々な専門診療を検討し家族の理解を得ながら受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と連携を取りながら、受診や処置の相談をしている。また、管理者と行う毎日の申し送りに看護師も参加し、情報を共有出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、申し送り書を通して申し送りをし、家族や施設としての意向を伝えながら治療方針などを考えてもらっている。2日に一度は面会に行くようにし、本人の状態を確認している。また、必要な時には毎日食事介助に行ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・家族に意思確認書を記入してもらっているが、その書類は同法人の病院でしか効力を示さない為、利用者の状況の変化に応じて行う家族面談の大切にし、意向に変化はないか確認を取っている。また、緊急搬送の際に、家族が適切に判断できるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救命救急の講習会に参加し、急変時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、提携している消防設備の方の指導の基、消防訓練を行なっている。また、避難方法の相談に消防署へ意見を求めたりして消防署とも関わりを持っている。また、今年起きた震災を機に、災害対策委員を立ち上げ、災害時の対策をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人職員にはオリエンテーションの際に、目上の方に対する言葉遣いや態度をするよう教育している。また、言葉が雑になってしまっている時には職員間で注意し合えるようにしている。個人情報に関わるものは所定の保管場所を決め、保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を奪わない声掛けを心がけ、出来る限り自己決定できるように支援している。自己決定の難しい方は希望や目的を代弁し、本人の生活用品は本人と買いに行くなどの関わりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じて買い物へ出かけたり、自室で食事を食べたり、食事の時間をずらしたりと、個々のペースに合わせて支援している。その為、希望に柔軟に対応できるよう、必要最低限の1日のスケジュールしか組まないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしている利用者には毎日続けられる様支援し、化粧品の購入なども一緒に行っている。また、希望に沿って美容室へ出かけたり、衣類の購入と一緒に掛かけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは利用者の状態に合わせて声掛けしており、食器洗いは自分の仕事と役割を感じている方もいる。漬物を一緒につけたり、食べたいものの希望を聞きながら、一緒に調理したりする事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行ない体重の変化の把握・温度板へ毎日の食事量、水分量を記入し摂取状況の把握などをしながら、利用者の栄養状態に留意している。同法人内の施設より副食の配送を依頼しており、管理栄養士により、栄養バランスは確保されている。また、栄養士との連絡帳を作り、食事に対する意見を交換できるようにしている。		

茨城県 グループホームしゃらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日義歯洗浄や歯磨きなど行っている。利用者によっては、口腔用スポンジなどの活用をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	温度板を活用し、排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導や介助を行ない、出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。本当にリハビリパンツなどが必要か必ず話し合いを持ち、安易に使用しないよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の利用者にあつた対応方法を見つけ出し、排泄の促進作用のある物の摂取を心がけている。また、腹部マッサージや運動による便秘予防にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	本人と相談しながら入浴する機会を持つようにしており、入浴日などは決めていない。自ら希望を言えない方は、最低週2回の入浴を目標に本人の様子や体調を考慮しながら入浴する機会を持っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活ペースやその時の様子、体の負担等を考えながら静養する時間が取れるよう関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はカルテへ保管し、いつでも確認出来る様になっている。薬の変更や追加処方などがあつた時には、薬の効用や用法を申し送り共通理解を図ると共に変化に留意している。また、看護師も薬の内容を確認出来る様に、処方箋のコピーを渡すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や能力を把握しながら、支援している。現在、家事を自分の役割と感じている方もいれば、お酒が好きな方とは居酒屋へ飲みに行くこともある。		



茨城県 グループホームしゃらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度、季節ごとの観光場所などに出掛けられるよう支援している。また、個人の要望や様子に応じて買い物へ出かけたり、外食へ出掛けたりしている。また、家族から外出の希望がある時には必要に応じて職員が同伴しながら不安を感じずに楽しめるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望や本人のお金を持っている事に対する不安も考え、管理は主に職員で行っている。しかし、本人の希望に沿って買い物などでお金が使える様にしているのはもちろんの事、個人の支払能力に応じながら、支払の援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方には、使い方のフォローをしたり、家族へ電話をしたいと希望のある方には希望に応じて電話できるように関わったりしている。また、年賀状などは個々の能力に応じて一筆書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事ごとに飾り付けを行ないながら季節感を感じてもらえるよう配慮しており、整理整頓も心がけている。エアコンの設定温度の幅を決め、室温も注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の様子に応じて配置などを検討している。変更の際には混乱してしまわない様、必ず話し合いを持ったうえでやっている。個別のスペースとして配置しているソファに一人でのんびりしたい時に利用する入居者もあり、活用出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で使いなれたなじみの物の大切さを家族へ伝え協力してもらえるよう働きかけている。本人の使いなれた居室空間は安易に配置替え等をしないよう注意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に応じながら配置などは検討、整理整頓を心がけ、生活導線が安心したものになるよう配慮している。		